第５類

付属幼稚園見学実習について

林 富公子 ・ 田中 麻紀子

Hayashi Fukuko *Tanaka Makiko*

2016 年度より本学の付属幼稚園における見学実習が取り組まれるようになった。今年度は初めての取り組みであったので次年度以降に向け見学実習がより良いものとなるように学生に対しアンケート調査をした。今後の見学実習における改善点として、①時間、②日程、③学生に対する授業内での事前準備が考えられた。

キーワード：保育者養成、見学実習、付属幼稚園との連携

1. はじめに

近年、本学の実習はTable1のように幼稚園実習が10月にあるまで、保育所などでアルバイトをしている者を除き学生たちは現場の子どもや先生方と関わる機会がほとんどなかった。また、本学が持つ子育て広場であるしゅくたん広場やぽかぽっぽモトロクなどでのボランティアの機会を設けようとしても、普段は授業が忙しく、場所も本学とは離れているので学生たちが空き時間などを利用してそれらに行くことは困難であった。

Table 1 現在の本学の実習の流れ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次							幼稚園実習(1回目)				保育実習Ⅰ(保育所)	
2年次			幼稚園実習(2回目)			保育実習Ⅰ(施設)	保育実習Ⅱ					
			小学校実習				保育実習Ⅲ					

一方、1997 年の教員養成審議会第一次答申では、養成校の学生が教職の意義、教員の役割、職務内容等に関する理解を深める中で、教員を志願するものは教職に対する自らの適性を考察することが述べられており、その方法として、教育実習その他の体験を通じた教職の実体験・類似体験などの機会を教員を志願するものに与えることが言われている[1]。また、同様のことが2005年[2]、2015年[3]の中央審議会答申でも言われており、養成段階において、現場における実践の重要性が改めて分かる。

このような状況の下、2015年度に本学教員と付属幼稚園教諭の間で「付属幼稚園新教育課程検討プロジェクト」が開かれその中には「短大と付属幼稚園の密接な連携の下に教員の相互交流を充実させ、質の高い教員養成のために実習方法の改善を試みる」という趣旨を含むものがあり、そこから「教員養成コースにおける学生の質向上の取り組み」という「目的」を含んだ付属幼稚園における短大養成校の学生が参加する見学実習が生まれた。

この会議において言われた見学実習の「ねらい」は、①夙川学院短期大学の学生が付属幼稚園の保育を体験的に知ること、②初めての実習（1年生幼稚園観察実習）に参加する以前に実習生としての態度や子どもと関わる喜びを学ぶこと、③短大教員が付属幼稚園の保育に現場で触れることにより教員間の交流を深め、今後の学生指導に生かすことであった[4 5 6]。

ところで、本学に実習の流れは次年度以降Table2のように大幅に変更される予定である。この表からも分かるように1年次における実習は2月の保育実習Ⅰ（保育所）におけるまでなく、従って1年生の学生たちが子どもと接する場を意図的に設けない限りほとんどない[7]に等しく、学生自身が保育者や学校生活に対するモチベーションを維持するためにもこの見学実習のさらなる充実が望まれる。

Table 2 次年度以降の主な実習の流れ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次											保育実習Ⅰ(保育所)	
2年次			保育実習Ⅰ(施設)			幼稚園実習	保育実習Ⅱ					
						小学校実習	保育実習Ⅲ					

そこで、学生に対し見学実習に関する調査をし、次年度以降の見学実習に関する見直しに取り組む事を今回の紀要の目的とする。

2. 見学実習について

①見学実習に参加するまで

2016年4月に、保育実習、幼稚園実習、小学校実習のうち1つでもこれらの実習に参加する者を対象に実習生説明会を行いその場で、「夙川学院短期大学付属幼稚園における見学実習について」[8]と言うプリントを配布し、見学実習の参加を促した。

後日、学生番号入りの配当表[9]を掲示板に貼り、各自が日程の確認を行えるようにし、変更が必要な者は担当者まで申し出るように伝えた。

②見学実習の日程と時間

日程：2016年6月13日（月）～6月17日（金）5日間、又は同年9月5日（月）～9月21日（水）12日間の内1日[10]。

時間：10時前～11時過ぎまで[11]

③見学実習の実際

・付属幼稚園の園舎を一周し、各クラス[12]で子どもたちと関わること

・11:00になったら、職員室に行くこと[13]

④見学実習参加後

感想用紙に感想を書いて指定日に提出すること。尚、園側にも見学実習に参加した学生の思いを伝えることができるように、感想の一部をコピーして渡した[14]。

2. 方　法

①調査対象と調査時期

調査対象：保育者養成校の短期大学1年生で幼稚園実習指導を受講し、調査に協力をした102名

調査時期：2016年11月幼稚園教育実習指導Ⅰの授業終了時

②調査内容

見学実習への参加・不参加、見学実習の時間の長短、幼稚園実習に見学実習が役立ったかどうか、保育所実習の参加・不参加、保育所実習に見学実習が役立つかどうか、見学実習をこれからも続けた方が良いかどうかなどとその理由。

③倫理的配慮

倫理的配慮として、研究参加は自由である事、参加を辞退しても不利益を被らない事、調査結果は目的以外に使用しない事、個人が特定できないようにデータ化しプライバシーの保護に努めることを伝えた。

3. 結果と考察

①見学実習に参加したかどうか

見学実習に参加した者81名、参加できなかった者21名であった。参加できなかった理由は、9月の見学実習時に台風による臨時休園があった為である。尚、参加ができなかった者たちは1年次2月の保育実習参加までに見学実習に参加する予定である。

②見学実習の時間について

見学実習に参加した81名について見学実習の時間の長さが妥当であったかどうか聞いたところ、51名(63%)が「適当」、29名(36%)が「短い」、1名(1%)が「長い」と答えた。

見学実習の時間の長短についてその理由を聞いたところ、「適当」と答えた者は、「ちょうどいい」、「雰囲気が分かった」、「子どもたちと接する時間が丁度良く感じたから」とある一方で、「何もしなかったし、園全体を見るのはちょうどいい時間だった」のように、見学実習で「何もしなかった」ので時間が適当と言う答えには驚いた。筆者なりに考察してみると、子どもとの関わりの実際がなかったからか、実際に学生が考える保育に（子どもの前で手遊びをするなど）取り組んでいないと思っているから「何もしなかった」という思いになるのではないかとも思われた。

また、「初めて」と言う言葉を使っている学生も何人かいた。少し雰囲気がわかればよいと思い参加していることもあるし、「初めてで何もできない状況なので、雰囲気を感じ取れるいい時間だと思いました」との記述もあることより「何もできない」からこそ、しっかりと見て次に活かせる実習にしてもらいたいし、教員側としても次につながるような言葉掛けが必要であると考えられた。

「短い」と答えた者は、「あまり幼稚園の流れが分か

らなかった」、「子どもとあまりかかわることができなかった」、「先生の様子なども伝わりにくかった」と学生としての率直な意見が目立った。また、「園児たちの関わりはなく、礼拝後のイスなどの片付けで終わったため」というように環境構成としての礼拝後の椅子の片付けが次の保育にどのように関わっていくのかという事が分からず「イスの片付け」が学生にとって保育の一部ではなく単なる事務作業になっている事が伺えた。

これらのことから、学生にとって「子どもと関わる事」が見学実習の目的になっていることが伺える。

しかし、保育現場における実習では子どもと関わるだけではなく、園における保育の流れ、保育者の子どもへの関わり、授業とは違った保育現場の空気を感じ取ること、とその目的は多様にある。

これらの事から、授業の中でも保育における準備の重要性や見学実習の目的について具体的に教員と学生とが共に考える場を設けることの必要性が感じられた。

③見学実習の希望時間

見学実習の時間について、「短い」または「長い」と答えた者に、希望の見学実習の時間を聞いたところ、Table3のようになった。

この表から、短いと答えた者の多くは1日中の見学実習を希望していることが分かる。この結果から、次年度に向けて幼稚園の先生方とも相談しながら1日実習が可能であれば受け入れをお願いしていくことの必要性が感じられた。

Table 3 見学実習の希望時間

	短い		長い		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%
1時間以内	3	10%	1	100%	4	13%
半日	2	7%			2	7%
1日	21	72%			21	70%
2日	1	3%			1	3%
未記入	2	7%			2	7%
合計	29	100%	1	100%	30	100%

④幼稚園実習と見学実習

見学実習に参加した者で幼稚園実習に参加した者は、80名で参加しなかった者は1名であった[15]。

さらに見学実習にも幼稚園実習にも参加をした者に対し、幼稚園実習前に見学実習に行ってよかったかどうかを聞いたところ、「良かった」56名、「どちらともいえない」24名であった。

「良かった」と答えた者の理由は、「子どもの具体的な姿が分かった[16]」、「子どもとの接し方が分かった」、「保育の流れが分かった」、「先生方の指導が良かった」「学校で学べないことが学べた」というものであった。

授業の中で子どもの姿や保育者の姿を伝えていても、やはり、学生自身が現場に出向き実際の子どもや保育者と関わり触れ合う事の必要性が伺えた。

一方、「責任実習で自分のやる先生像を考えられるようになったから」と言う理由から、保育者養成校に入学する学生は中学や高校での職業体験などで、養成校への入学前に保育現場に出向くことも多くなってきているとはいえ、全ての学生がそれらに参加しているわけではないことを考えると、具体的な保育者の姿を想像できるようになったことは意義深いことと思われる。

また、「たくさんのことを吸収でき、まだまだ自分の足りないことに気づけたから」と言う学生もいた。この学生の姿から日々の保育を省察し保育者として成長していこうとする姿が垣間見えて頼もしく思えた。

これらのことから、保育を見る視点や保育者としての成長を学生が考える機会を見学実習参加後に意見交換会として持つことにより学生にとって見学実習がより実りの多い場になるように思われた。

「どちらともいえない」理由は、「園によって雰囲気や保育の仕方が違う」、「子どもとの関わりが少なかった」、「時間が短い」などであった。

ここでも、「見学実習の時間」と同じような理由、つまり、「子どもとの関わりの少なさ」や「時間の短さ」が述べられている。そこで、次年度に向けて「見学実習における学生の子どもとの関わり」、「実習時間」を見直すと共に、なぜ「園によって保育の仕方や雰囲気が違うのか」という事を授業においても伝えていくことが必要であると思われた。

⑤幼稚園実習で見学実習の経験が生かされたかどうか

「生かされた」31名、「どちらともいえない」42名、「生かされなかった」7名であった。

「生かされた」理由は、「子どもとの関わり方が学べた」、「それぞれの幼稚園の違いが分かった」、「授業で学んでいたことを思い出しながら幼児たちと関われたと思ったから」と言うものがあり、学校の授業で学ぶことが実際の保育現場と結びついたこともあったよう

である。

「どちらとも言えない」は、「見学実習の短さ」、「子どもとあまりかかわれていない」という意見が目立つ一方で、「見るだけだった」、「とくになにもしていない」、「よく分からなかった」など学生が見学実習の目的を理解していなかった様子もあった。同様に、「生かされなかった」では、「見学ではあまり保育に参加しなかった」、「何をしたらいいのか分からない」と言う答えもあった。

このことから、見学実習に参加する前に、教員側が学生に見学実習の意義を伝えると同時に、授業内で見学実習をフィードバックして考える時間を設けることの必要性が伺えた。そのことにより、学生自身が「保育を見る視点」や「何をしたらいいのか分からない」のではなく、「何をしたらいいのか」という事に気づくことができるのではないかと思われた。

⑥見学実習不参加の者に対する見学実習への思い

見学実習に不参加だった者で、幼稚園実習に行った者20名、行っていない者1名であった[17]。

尚、この者たちのうち幼稚園実習前に見学実習に「行きたかった」は13名、「どちらともいえない」は8名であった。

「行きたかった」理由として、「実習前に行きたかった」、「幼稚園を見たかった」とあった。一方「どちらとも言えない」では、「行っていないからどちらとも言えない」と言う回答であった。

このことから、台風など不測の事態に備え予備日を設けることが大切であると感じられた。

⑦見学実習と保育所実習

見学実習が保育所実習に役立つと思うかどうかについて聞いた。保育所実習参加予定者は101名、不参加予定の者は1名であった。尚、保育所実習に行かない者は幼稚園実習には参加していたので、幼稚園免許あるいは幼稚園と小学校免許の取得を目指している者と考えられた。

見学実習が保育所実習に役立つと思うかについて聞いたところ、Table4のようになった。

Table 4 見学実習が保育実習に役立つかどうか

		役立つと思う	どちらともいえない	役立たないと思う	合計
見学実習に	行った	37	38	6	81
	行っていない	13	7		20
合計		50	45	6	101

見学実習に行き「役立つ」と答えた者の理由は主に「子どもとの関わりになれるから」や「先生の動きや配慮で重なるところはあると思うから」など「子どもとの関わり」、「保育者の動き」に関するものと、「役立つと思う」と本人自身の実習に対する貪欲な思いに関するものがあった。

「どちらともいえない」では「保育所と幼稚園は違うから」など、両者の表面的な違いに目を向けた者が多く、次いで「1日の流れは分からなかった」などここでも「時間の短さ」を指摘する声があった。

「役立たないと思う」の理由は、「見学実習では保育に参加することができなかった」、「いきなりいっても意味が分からない」とあった。

一方で見学実習に参加できなかった者の「役立つ」と思う理由は、「内容はそれほど変わらないと思う」と言うものや「役立てたい」というものが目立った。また、「どちらともいえない」では、「まだ参加していないのでわからない」という尤もな意見がほとんどであった。

これらのことから、見学実習への参加の有無に限らず「役立つ」と感じた者は、学生自身が見学実習の意味を理解し、与えられた場所で意欲的に学んでいこうという気持ちがあるように感じられた。

逆に、参加した者で「どちらともいえない」や「役に立たない」と感じている学生の意見から、学生の授業出席度は統計を取っていないので分からないが、見学実習への参加前に、学生自身が見学実習の参加の目的を確認できるようなワークなどを実習の事前事後指導のなかでできるように、教員側の準備が必要であると思われた。

4. まとめ

最後に、次年度に向け見学実習の在り方について言及する。今年度、本学科と付属幼稚園における見学実習が実現し、学生たちにとって良い学びの場になったようである。

しかし、見学実習を今後より良いと物とする為に教員側の準備としてとして①実習時間、②実習日程、③見学実習前の事前・事後準備の3点が改善点として考えられた。

①実習時間については、付属幼稚園側のスケジュールを考慮する必要があるだろうが、他学の見学実習の時間を参考[18]にしても、園と相談をして少なくとも学生たちが1日の流れを経験することができるようにすることが学生達からの意見でも必要であると思われた。

②実習日程については、不測の事態で初めての実習までに見学実習に参加できなかった者もいるので、予備日を作ることの重要性が分かった。また、次年度は今の予定で、6月1週間、9月2～3週間、10月1週間が可能であるように思われるので、その中で授業カリキュラムと照らし合わせながら園側と時間や日程の調整を図っていきたいと考えた。

③見学実習前の事前・事後準備に関しては、今回は実習生としての身だしなみやマナー、持ち物についてのみ学生に伝えることで、事前準備が終わった感が否めない。次年度に向け、事前準備として学生の実習生としての意識を高めるためにも、「保育を見る視点（子どもや保育者との関わり、環境構成)」、「実習生本人の見学実習におけるねらい」を明確化していくこと、事後指導として、反省会を持つことが次への実習に向けて必須であると感じられた。

また、今回の調査かつ見学実習においては「はじめに」で述べた、「短大教員が付属幼稚園の保育に現場で触れることにより教員間の交流を深め、今後の学生指導に生かすこと」というねらいは今回の見学実習だけで達成されたとは言えない。しかし、付属幼稚園の強みや魅力として、幼稚園教員の資質向上・力量形成や実習生の受け入れがある[19]ことを考えると、今回の見学実習の取り組みを第一段階として、実習を含めた短大と幼稚園の教員間の交流や学生指導にそれを活かしていくことは今後の課題であると考えられる。

次年度は、今年度と違い幼稚園の実習時期が異なり、保育関係の資格取得（保育士・幼稚園教諭）を目指す学生にとって保育所実習が初めての実習になる。1年生の時に学生が保育の職や学校生活に対してモチベーションを維持することが出来るようにするためにも、見学実習が充実したものとなるように今回の課題を踏まえ取り組んでいきたいと思う。

---

[1]文部科学省　新たな時代に向けた教員養成の改善方策について　（教育職員養成審議会・第1次答申）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/old_chukyo/old_shokuin_index/toushin/1315369.htm
（2016/12/21 アクセス）

[2]文部科学省　2005 年の中央教育審議会答申でも、「子どもを取り巻く環境 の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について―子どもの最善の利益のために幼児教育を考 える―」の，第 2 章第 1 節第 3 項の幼稚園教員の資質及び専門性の向上 (1)　幼稚園教員の 養成・採用・研修等の改善では，「教員志望者自身が多様な知識や豊かな体験を得ること，また，養成段階においても一般教育科目の取得のみならず，インターンシップ（就業体験）等，幼稚園 現場での実践を経験することが重要である」とある。
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/attach/1345855.htm
（2016/12/26　アクセス）

[3] 文部科学省の 2015 年中央審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い，高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申)」の、「3. 教員の養成・採用・研修に関する課題(3)教員養成に関する課題」に「実践的指導力の基礎の育成に資するとともに，教職課程の学生に自らの教員としての適性を考えさせる機会として，学校現場や教職を体験させる機会を充実させることが必要である」とある。
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896_01.pdf　（2016/12/26　アクセス）

[4]見学実習の目的は、実習のテキストを概観すると、①保育の流れを理解すること、②子どもの活動の様子を知ること、③保育者の仕事の概要を理解すること、④園の概要を知ることなど が記載されていた。また、他学の見学実習のねらいを見ると、「園生活の一日の流れを知る」、「保育者の仕事を知る」とあり、本学の付属幼稚園における見学実習のねらいは妥当であると思われる。

[5] 参考にした実習テキストは以下のものである。

百瀬ユカリ　2009　よくわかる幼稚園実習　創成社 p50、二階堂邦子　2009　教育・保育・施設実習テキスト　建帛社 p54、民秋言・安藤和彦・米谷光弘・上月素子　2009　新保育ライブラリ 保育の現場を知る幼稚園実習　北大路書房 p68

[6] 他学とは岡崎女子短期大学であり、以下の文献を参考にしている。
大岩みちの　吉田龍宏　2004　実習の事前指導の充実をめざして ：１日見学実習・土曜参加実習から　日本保育学会大会発表論文集（57）　p544-545

[7] 「ほとんどない」と言うのは、各ゼミの中で子育て支援センターに行ったり、保育実習指導Ⅰ（保育所）の中で「赤ちゃん先生」において学生が子どもや保護者と関わったりする機会が少しはあるからである。尚、「赤ちゃん先生」とは、団体のホームページによると「赤ちゃんとママが教育機関や高齢者施設、企業、団体に訪問し、学び・癒し・感動を共有し、人として一番大切なことを感じてもらう人間教育プログラム」のことである。
https://www.mamahata.net/company/project/akachansensei（2016/12/26 アクセス）

[8] この「夙川学院短期大学付属幼稚園における見学実習について」のプリントには、①（見学実習時の）服装、②集合時間と場所、③持ち物、④参加時の注意事項、⑤終了時刻、⑥個人情報保護、感想の提出などについて、記載したものである。

[9] 配当表の作成に当たっては出来る限り次の配慮をした。小学校実習のみ参加者は、小学校の児童をイメージできるように年長児クラスにする事、遠隔地出身の学生は帰省のことを考え9月19日以降に配当するように気を付けた。

[10] この日程は、学生の実習挨拶又は夏季休暇中である。尚、この日程は付属幼稚園園長の井上先生らと、園児が遠足等で園内にいない日を除く等、園の行事を考えて決定した。

[11] 時間に関しては、6月の3歳児の降園時間（11時半）を考慮し決めた。

[12] 各クラスとは、年長児2クラス、年中児2クラス、年少児2クラスの計6クラスであり、日によっては園外保育などの関係で計4クラスになる場合がある。
尚、各クラスへの配当は、余りにも人数が多すぎると学生が子どもと関わることが困難になると予想されたので年長・年中児は3人ずつ、年少児は2人ずつとした。

[13] 職員室に行った後は、先生方に挨拶をするとともに園長先生から、実習に向けての激励の言葉を頂いた。

[14] 全ての感想を園側に渡さなかったのは、全部渡してしまうと、読み切るだけでもとても時間が掛かってしまい、先生方の負担が増えてしまうと考えたからである。

[15] 幼稚園実習指導の授業ではあるので本来なら、全員が幼稚園実習に参加しているはずである。しかし、ここで幼稚園実習に参加していないものがあるのは、保育所実習と小学校実習への参加希望のため、本来ならば幼稚園実習指導への参加はしなくてもよいが、学生自身に学ぶ意思があり本人の希望により単位外で幼稚園実習指導の授業を受講しているためである。

[16] この回答の例としては「4歳ではさみがどのくらい使えるのか何がどのくらいできるのかが見れたから」というものがある。

[17] 脚注15を参照のこと。

[18] 大岩みちの　吉田龍宏　2005　１日見学実習で学生は何を学んだのか　研究紀要（38）　p135

[19] 濱名陽子　2013　私立大学付属幼稚園の魅力に関する一考察　教育総合研究業所(6)　p99-109

ピアスーパーバイザーからのコメント

この付属幼稚園における見学実習は、本学の付属幼稚園と連携し、今年度初の取り組みとして、教員養成コースにおける学生の質向上を狙ったものとして位置付けられた。その取り組みの中で受講者からの調査結果を丁寧に分析され、今後よりよい見学実習となるために、実習時間、実習日程、見学実習の事前事後の３つの観点から改善策を提示されている。これらを仕組む教員の役割は極めて大きいことが示唆された。次年度以降、短大と幼稚園の教員が交流を深めることで、学生指導に活かされ、見学実習が受講者にとって更に有意義なものになるよう期待する。

(担当：髙田　佳孝)